

平成 31 年

三重県議会定例会会議録

(1 月 17 日)
(第 1 号)

第 1 号
1 月 17 日

平成31年

三重県議会定例会会議録

第 1 号

○平成31年1月17日（木曜日）

□開会に当たり、鈴木英敬知事、前田剛志議長は、それぞれ次の挨拶を述べた。

○知事（鈴木英敬） おはようございます。

開会に当たりまして御挨拶申し上げます。

平成31年三重県議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位にはお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

本年は、いよいよ平成という元号が改められる節目となります。この新しい時代の始まりに当たって、県民の皆様は、新しい時代を明るく、笑顔で、日本一幸福だと実感していただけるよう、今年も、県民の皆様への命や暮らしを守る取組をしっかりと進めるとともに、未来を切り開く取組にも果敢に挑戦するなど、最終年度を迎えるみえ県民カビジョン・第二次行動計画の取組を着実に進めてまいります。

また、今年には伊勢湾台風から60年、昭和東南海地震から75年の節目を迎える年でもあります。過去の災害を振り返りつつ、近年の災害の教訓を踏まえ、全部局において、県民の皆様への命を守る取組に万全を期していく一年としていきたいと考えております。

議員各位におかれては、格別の御理解と御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、甚だ簡単ではございますが、開会の御挨拶とさせていただきます。

○議長（前田剛志） 改めまして、おはようございます。

平成31年三重県議会定例会の開会に当たりまして、私からも一言御挨拶を申し上げます。

本年、私ども議員は、4月に任期終了を迎えることとなりますが、それまでの間、県政発展のため、最善を尽くすとともに、様々な議会改革の取組を改選後の県議会に着実につなげていけるよう、努力してまいりたいと考えております。

執行部におかれましては、県民の命、財産を守る防災・減災対策、国内外に向けた三重の魅力発信、三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向けた準備などを一層進めていただくとともに、みえ県民力ビジョン・第二次行動計画の総仕上げをお願いしたいと思います。

県議会におきましても、平成の時代に浮き彫りになった少子・高齢化や人口減少、技術の進歩がもたらす産業構造の転換など、様々な社会情勢や環境の変化を的確に捉えながら、必要となる政策の実現に取り組んでいくべきであると考えております。

本定例会は、改元を控える中で開催される平成最後の定例会となります。議員各位におかれましては、今後の新たな時代を視野に入れながら、本定例会で提出される諸議案の審議等において活発な議論をお願いするとともに、議事運営への格別の御協力を重ねてお願いを申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議事日程（第1号）

平成31年1月17日（木）午前10時開議

- 第1 議席変更の件
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 会期決定の件
- 第4 議会運営委員会の委員定数変更の件
- 第5 議会運営委員補充選任の件

会議に付した事件

- 日程第1 議席変更の件

- 日程第2 会議録署名議員の指名
 日程第3 会期決定の件
 日程第4 議会運営委員会の委員定数変更の件
 日程第5 議会運営委員補充選任の件

会議に出欠席の議員氏名

出席議員 48名

1	番	芳野	正英
2	番	中瀬古	初美
3	番	廣	耕太郎
4	番	山本	里香
5	番	岡野	恵美
6	番	倉本	崇弘
7	番	稲森	稔尚
8	番	野村	保夫
9	番	下野	幸助
10	番	田中	智也
11	番	藤根	正典
12	番	小島	智子
13	番	濱井	初男
14	番	木津	直樹
15	番	田中	祐治
16	番	野口	正
17	番	石田	成生
18	番	彦坂	公之
19	番	大久保	孝栄
20	番	東	豊
21	番	山内	道明

22	番	吉川	新
23	番	津村	衛
24	番	杉本	熊野
25	番	藤田	宜三
26	番	後藤	健一
27	番	小林	正人
28	番	服部	富男
29	番	津田	健児
30	番	中嶋	年規
31	番	村林	隆聡
32	番	長田	英尚
33	番	奥野	智介
34	番	今井	正広
35	番	日前	剛信
36	番	舟田	裕志
37	番	三橋	哲幸
38	番	中谷	進央
39	番	青木	謙順
40	番	中森	博文
41	番	前野	和美
43	番	水谷	隆勝
44	番	山本	教和
45	番	山本	信行
46	番	山西	正美
47	番	中川	直人
48	番	館	
49	番	欠	
(42)	番		(番)

職務のため出席した事務局職員の職氏名

事務局長	湯 浅 真 子
書 記 (事務局次長)	岩 崎 浩 也
書 記 (議事課長)	佐 藤 史 紀
書 記 (企画法務課長)	稲 垣 雅 美
書 記 (議事課課長補佐兼班長)	中 村 晃 康
書 記 (議事課班長)	中 西 健 司
書 記 (議事課主幹)	川 北 裕 美

会議に出席した説明員の職氏名

知 事	鈴 木 英 敬
副 知 事	渡 邊 信 一 郎
副 知 事	稲 垣 清 文
危機管理統括監	服 部 浩
総 務 部 長	嶋 田 宜 浩

午前10時4分開会・開議

開 会 ・ 開 議

○議長（前田剛志） ただいまから平成31年三重県議会定例会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

議 席 変 更 の 件

○議長（前田剛志） 日程第1、議席変更の件を議題といたします。

議員の所属会派の異動に伴い、会議規則第2条第3項の規定により、議席を変更いたしたいと存じます。

お諮りいたします。本日より、ただいま御着席のとおり、議席を変更することに、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前田剛志） 御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

諸 報 告

○議長（前田剛志） この際、報告いたします。

文書による質問が提出され、知事に送付しましたので、さきに配付いたしました。

次に、例月出納検査報告1件が提出されましたので、お手元に配付いたしました。

次に、説明のための出席要求につきましては、お手元に配付の名簿のとおり出席を求めました。

以上で報告を終わります。

会議録署名議員の指名

○議長（前田剛志） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員として、

12番 小 島 智 子 議員

14番 木 津 直 樹 議員

31番 村 林 聡 議員

以上、3名の方を指名いたします。

会 期 の 決 定

○議長（前田剛志） 日程第3、会期決定の件を議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は、本日から3月15日までの58日間といたしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前田剛志） 御異議なしと認め、会期は58日間と決定いたしました。

議会運営委員会の委員定数変更

○議長（前田剛志） 日程第4、議会運営委員会の委員定数変更の件を議題といたします。

お諮りいたします。議会運営委員会の委員定数を12名に変更いたしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前田剛志） 御異議なしと認めます。よって、議会運営委員会の委員定数を12名に変更することに決定いたしました。

議会運営委員補充選任

○議長（前田剛志） 日程第5、議会運営委員補充選任の件を議題といたします。

お諮りいたします。委員会条例第6条第1項の規定により、議長から、村林聡議員を議会運営委員に指名いたしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前田剛志） 御異議なしと認めます。よって、議長指名のとおり決定いたしました。

知 事 発 言

○議長（前田剛志） この際、知事から発言を求められておりますので、これを許します。鈴木英敬知事。

〔鈴木英敬知事登壇〕

○知事（鈴木英敬） 議長のお許しをいただきましたので、この際、今春の知事選挙につきまして私の所信を申し述べます。少々お時間いただきますが、御容赦賜ればと存じます。

まず、約7年9カ月の間、県議会の皆様や県庁職員をはじめ、県選出国会議員、市町長、関係団体、各地域のリーダーの方々など、そして何より多くの県民の皆様から県政へのお力添えをいただいたことに深く感謝申し上げます。この間、2期目だけでもG7伊勢志摩サミット、菓子博、インターハイなど数々の三重県の歴史に残ることに携わらせていただきました。

また、多くの県民の皆様の御努力のおかげで、過去最高を記録した県内総生産や観光入り込み客数、実質経済成長率全国2位、1人当たり県民所得全国3位など、三重県の発展につながる成果もたくさん生まれ、私自身も少しばかりではありますが、それらに貢献させていただけたのではないかと感じております。

他方、地域の方々の御要望に十分お応えできていないものや、道半ばの課題も多々あると認識しています。

任期も終盤に迫る中、次の4年間、私が知事という職を引き続き担わせていただくための挑戦をすべきか、慎重に検討を重ねてまいりました。

4点申し上げます。

まず1点目、東日本大震災1カ月後に就任し、就任5カ月後に紀伊半島大水害を経験した私の初心の一つは、紛れもなく三重県の防災・減災対策を徹底して行い、県民の皆様の命や暮らしを守ることです。次の4年間には、その二つの災害から10年という大きな節目を迎えます。今年には日本の災害史を塗りかえた伊勢湾台風から60年、あわせて昭和東南海地震から75年の節目です。折しも本日1月17日は私自身の知人の命も奪われた阪神・淡路大震災が発生した日です。来年は25年の節目です。さらに、今年から3年間、国を挙げて防災・減災、国土強靱化に集中的に取り組むとされており、三重県としてもそれらの機会を活用し、しっかり取り組まねばなりません。今こそ改めて初心を貫き、様々な節目の機会も生かし、東日本大震災や紀伊半島大水害からスタートした防災・減災対策のソフト、ハード面での仕上げや、さらなる進化のために全力投球すべきときであると考えています。

もう一つの重要な初心は、様々なチャンスを生かし、三重県の知名度や経

済を向上させ元気にする事です。営業知事と表現したこともあります。次の4年間は三重とこわか国体・とこわか大会や東京オリンピック・パラリンピックの開催、リニアの三重県内駅やルート決定に向けた重要な時期、新名神高速道路開通、四日市港120周年、中部国際空港におけるLCCターミナル完成など、改めて三重県が知名度を高め、発展するためのチャンスがたくさんあります。私は、チャンスは貯金できないという言葉が好きです。多くのチャンスを迎え、今こそ、改めて初心を貫き、三重県の元気に貢献すべきときであると考えています。

また、リーマンショックによる経済低迷から県内事業者の皆様が懸命に努力していただいた結果、先ほど述べたような経済状況までこぎつきましたが、今年には消費税増税があります。過去の消費税増税の影響は地方のほうが大きくなります。よい流れを断ち切るわけにはいきません。三重県経済を沈ませるわけにはいきません。

2点目です。元号が改まり平成のその次の新たな時代の幕開けが目前に迫っています。人口減少はもちろん、これまでの時代になかった経済社会の変化が訪れることを見越せば、これまでの昭和や平成における成功体験のみに頼るのではなく、あらゆる分野で新たな時代のモデルを果敢につくり上げていかねばなりません。

例えば、2025年には団塊の世代が75歳以上となり、2042年には団塊ジュニア世代が65歳以上となる高齢化のピークを迎えます。これらはまさに平成の次の時代の間にかかることです。この時期のかじ取りを間違えば、三重県が新たな時代の変化に対応できず、県民の皆様が笑顔で、安心して幸福に暮らしていただけることに支障が出かねません。

2期目はオール三重という言葉をよく使いました。G7伊勢志摩サミットやインターハイなど、県民の皆様のを結集していただき、オール三重による取組の結果、いずれも大成功となりました。今こそ、近年のオール三重で培った経験やレガシーを生かし、県民みんなで力を合わせ、新たな時代の三重の未来を切り開いていくときであり、私自身もこれまでオール三重の先頭

に立たせていただいた経験を存分に生かし、貢献させていただきたいと考えています。

3点目です。私は三重県民の皆様の誇るべき特質や優位性は、包容力、多様性だと思います。日本の、世界の先進的な存在となり得ると感じています。平成の時代は孤独とつながりがふくそうした時代でした。それは平成の次の時代も変わらないでしょう。共感性を高く持ち、他人の痛みを感じ、いたわり、助け合う、そしてどんな文化や価値観の違う人に対しても理解し、包み込む。約8年間、児童虐待、家庭養育の推進、いじめ防止、障がい者雇用の推進、地域医療、少子化対策、発達支援、動物愛護、多文化共生など、県民の皆様とともに、包容力や多様性を大事にする政策に取り組んでまいりました。道半ばのものもあることも踏まえ、今こそ、これからの時代にさらに重要となる包容力、多様性を深化させる取組を優位性があるこの三重県から行っていき、新たな時代の全国の先駆けとなっていくべきときであると考えております。

4点目です。特に2期目の4年間、県庁や学校現場において、たび重なる不適切事務や不祥事が生じました。また、2期目を通じて大変厳しい財政状況でもありました。それらへの対処は決して先送りすることはできません。県民の皆様からの信頼回復、財政健全化という県行政の根幹をなす部分について、今こそ、しっかりと改善への道筋をつけるべきときであると強く思っています。

以上、申し上げましたような4点について、今こそ、そのときとの思いから、来る知事選挙に3度目となる出馬をし、改めて県民の皆様から負託をいただくのであれば、引き続き県政の重責を担わせていただく決意をいたしました。

私は、年齢も若く、政治や人生の経験も多くありません。才能や経験という面で言えば、優れた方はたくさんいらっしゃるでしょう。

しかし、三重県民のために努力をすること、三重県を愛することにおいては、これまでもこれからもきっと誰にも負けない、そう強く思っています。

今後も県民の皆様のために粉骨砕身、あらん限りの力を振り絞って全力を傾注してまいる覚悟です。どうか議員の皆様をはじめ、県民の皆様の御理解と御協力を引き続き賜りますよう、心からお願い申し上げまして、私の所信の表明とさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○議長（前田剛志） これをもって本日の日程は終了いたしました。

休 会

○議長（前田剛志） お諮りいたします。明18日から2月13日までは休会といたしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前田剛志） 御異議なしと認め、明18日から2月13日までは休会とすることに決定いたしました。

2月14日は定刻より本会議を開きます。

散 会

○議長（前田剛志） 本日はこれをもって散会いたします。

午前10時15分散会